

1 県の概要 (町村部)

人口	497,009 人
保護率	1.06 % (H30.4.1現在)

2 支援状況調査 (H30年度)

新規相談受付件数人口10万人当(件)	一月当たり	17.4
プラン作成件数人口10万人当(件)	一月当たり	7.8
就労支援対象者数人口10万人当(件)	一月当たり	2.7

3 実施方法について

実施方法	委託 (単年、公募プロポーザル)
事業費	78,017千円 (平成30年度)
理由 (委託)	<p>○対人援助に係る高度な専門性及び技術力を必要とするとともに、学習教室の運営や学習指導に係る高度な技術力と企画力が要求されるため。</p> <p>○生活困窮者自立支援制度開始前から、生活保護世帯の中高校生向け学習支援事業について実施していた。支援実績のある事業者に業務委託したほうがより効果的な支援が行えると考えたため。</p>
事業概要	<p>○学習支援教室の運営を行う学習支援員10人と教室運営を補助する学習支援専門員30人を配置。</p> <p>○会場は公共施設等を利用。</p> <p>○中学生教室は11か所に設置。定員は1教室あたり40人程度。延べ536回開催。</p> <p>○高校生教室は14か所に設置。定員は1教室あたり20人程度。延べ759回開催。</p>
その他特記事項	○ボランティア登録時に約1時間かけて制度等について説明。教室でも毎回ミーティングを実施し、個人情報漏洩等に注意する等事故防止に努めている。

4 事業実績 (H30年度)

教室参加 (中学) 生保	教室参加 (中学) 困窮	教室参加 (高校) 生保	教室参加 (高校) 困窮	参加ボランティア延べ人数	家庭訪問 延べ人数 (中学)	家庭訪問 延べ人数 (高校)
63	197	29	53	5515	519	255

5 事業実施のポイント ~子供の居場所づくり~

Point

関係機関、ボランティアと連携し、マンツーマンの支援を実施

- 協力大学を個別訪問。事業説明を実施し、ボランティアを確保。教室ではマンツーマン指導をしている。
- 無償ボランティアだけでは指導できないところを、専門知識がある学習専門員がフォローして学力向上を図っている。
- 教室に参加できない子供には家庭訪問をすることで、子供だけでなく、保護者の支援も実施している。
- 大学生が教室に参加することで、子供たちが将来の自分をイメージできるようにしている。



6 取り組んで良かったこと

- 個別指導の中で子供たちに学ぶ意欲が生まれた。また、自分を受け入れてくれる大人がいることで、子供たちの社会に対する信頼感が高まった。
- 不登校、引きこもりから抜け出すきっかけとなった。
- 学習支援、情報提供などで高校受験への見通しがつき、高校進学率も向上している。
- 学習教室に通う中で子供と保護者との会話の機会が増えた。また、保護者も子供の頑張る姿を見て、就労、自立への意欲が高まった。
- 働く大人の姿をみて、自身の就労について考える子供も出てきた。